



① 旧伊藤伝右衛門邸

伝右衛門や白蓮に思いを馳せる



明治30年(1897)代後半に建造。大正初期、昭和初期に数度の増改築が行われました。邸宅は南棟(正面)、北棟(庭側)、両者を結ぶ繋棟、西棟の居住棟4棟と土蔵3棟からなり、池を配した広大な回遊式庭園をもつ近代和風住宅です。建物の見所は和洋折衷の調和のとれた美しさ。当時先進的だった建物技術や、繊細で優美な装飾を随所に見ることができます。また、柳原白蓮が伊藤伝右衛門の妻として約10年間を過ごしたゆかりある地でもあります。

- 国の名勝指定 旧伊藤傳右工門氏庭園 平成23年(2011)9月21日指定
- 国の重要文化財 名称:旧伊藤家住宅 令和2年(2020)12月23日指定

☎ 0948-22-9700 🏠 飯塚市幸袋300
 ♫ 高校生以上 310円(250円) 小・中学生 100円(80円)
 ()内は20名様以上の団体料金 ※土曜日に限り高校生以下は無料
 ⌚ 9:30~17:00(16:30までに入館)
 🗺 水曜日(祝日は開館)※イベント開催中は無休 🅐 あり
 年末年始(12/29~1/3)

MAP 2-D



散策の見どころ



長屋門



二階座敷(白蓮居室)



庭園から見る旧伊藤伝右衛門邸



矢羽根天井と畳廊下



ミュージアムショップ白蓮



いづか雛のまつり



国の重要文化財に指定されている立岩遺跡の出土品である甕棺、前漢鏡をはじめ、中国西安市から寄贈された秦始皇帝兵马俑(複製)などを展示。その他に、宿場町時代の道具、伊藤伝右衛門と柳原白蓮に関する資料、山本作兵衛氏の作品の原画、炭鉱関連資料なども展示してあります。

☎ 0948-25-2930 🏠 飯塚市柏の森959-1
 ♫ 一般 230円(160円) 高校生 110円(70円)
 小・中学生 50円(30円)
 ()内は20名様以上の団体料金
 ※土曜日に限り高校生以下無料
 ⌚ 9:30~17:00(16:30までに入館)
 🗺 水曜日(祝日を除く)/年末年始(12/29~1/3) 🅐 あり



② 飯塚市歴史資料館

飯塚市の歴史と文化をテーマに考古・歴史・民俗・炭鉱の資料などを展示

MAP 3-D



館内の見どころ



宿場の主人が使っていた小道具類



南の島との交易をうかがわせる貝の腕輪



小正西古墳出土の巫女型埴輪



内野家伝来の甲冑



立岩遺跡発見の甕棺(死者の棺)



立岩遺跡発見の前漢鏡(中国の鏡)



③ 嘉穂劇場

炭鉱が栄えし頃の風情を偲ぶことが出来る

MAP 4-D

飯塚の産土(うぶすな)さま

④ 曩祖八幡宮

古くは神功皇后が三韓よりの帰路立寄り、兵士との離別に際し、「何日可逢(いつのひかあうべし)」と言ったのが飯塚の地名の由来の一つと言われています。社伝では、その跡に当社が作られたといわれています。創建年代は不詳ですが、延文4年(1359)には社殿が建立されていました。



☎ 0948-22-0511
🏠 飯塚市宮町2-3
📍 あり/見学自由

MAP 4-D

飯塚のシンボル

⑥ 忠隈のボタ山

忠隈のボタ山は現存する平地ピラミッド型ボタ山としては日本最大で、別名「筑豊富士」とも呼ばれ、地域のシンボルとして残っています。ボタとは九州地方の炭坑が使われた言葉で、選炭した後に残る石や質の悪い石炭のこと。高さ121m、面積22.4ha



🏠 飯塚市忠隈
※登山不可



産業遺産を今に伝える

⑦ 巻き上げ機台座

巻き上げ機台座は幅13.5m高さ12m筑豊地方でも最大級の巻き上げ機台座で、大正時代に作られ蒸気力で稼働したとされています。掘り出した石炭を地上に搬出するトロッコや作業員を乗せる人車の上げ下ろしのための機械を設置する台座です。



🏠 飯塚市平恒460-8
📍 なし/見学自由



劇場の見どころ



樹席



奈落



嘉穂劇場展示室

石炭産業で栄えていた昭和6年(1931)に炭鉱労働者の娯楽場として開場し、江戸時代の芝居小屋の特徴である樹席と本の花道、人力で動かす廻り舞台や迫りがある全国でも数少ない芝居小屋です。国の登録有形文化財で、近代化産業遺産にも指定されています。平成15年7月の大水害で壊滅的被害を受け、全国から温かい支援により1年で復旧を果たしております。現在は令和3年に運営元であるNPO法人嘉穂劇場から飯塚市へ贈与され休館しています。(運営再開の際は飯塚市のホームページなどでお知らせする予定です。)

☎ 0948-25-2930 (休館中のため、お問い合わせは飯塚市歴史資料館へ)
🏠 飯塚市飯塚5-23 ※現在休館中

福岡宮崎宮の前身

⑤ 大分八幡宮

大分八幡宮は奈良時代の神亀3年(726)に創建されたと云われています。宮崎宮(福岡市東区)の元宮として知られ、宇佐八幡宮(大分県宇佐市、現在の宇佐神宮)の「九州五所別宮」の第一に位置付けられた、由緒正しい名社として存続しています。境内には、神功皇后が三韓の役から帰国の際に持ち帰った3本の樟の内の1本の子孫であると云われている大樟や、応仁天皇の産湯を使ったとされる井戸などがあります。



☎ 0948-72-0621
🏠 飯塚市大分1272
📍 あり/見学自由

MAP 7-B

古代山城

⑧ 鹿毛馬神籠石

鹿毛馬神籠石は約1,800個の切石を並べて列石とし、低い谷間に石組みで水門等が設けられており、古代(7世紀)頃の山城ではないかと考えられています。昭和20年(1945)国の指定史跡に指定されました。

🏠 飯塚市鹿毛馬1088
📍 あり/見学自由



MAP 2-E,F

飯塚の歴史

歴史と文化を育む遠賀川

遠賀川流域では、大陸からの外来文化の移入もあって早くから農耕文化が開けていたといわれています。弥生時代の立岩遺跡をはじめ、古墳時代には小正西古墳や川島古墳など多くの遺跡・古墳が流域に所在しています。遠賀川は、律令時代には中央への年貢米の輸送、江戸時代には芦屋や大阪への廻米、瀬戸内海沿岸の製塩に使用する石炭輸送など、明治時代には石炭輸送のため多数の川舟が往来しました。このように遠賀川の水運は、地域の人々と共に歩み、古くから飯塚の歴史と文化を育んできました。



はるか縄文より栄えた地

今から約1万年前の縄文時代には既に飯塚の地に人が足を踏み入れていました。約2千年前の弥生時代には、北部九州は稲作の先進地で、飯塚でも遠賀川の肥沃な土地を利用し稲作が行われていました。立岩遺跡からは南の島との交易をうかがわせる出土品や、日中交流を物語る前漢鏡、立岩で作られた石庖丁が吉野ヶ里(佐賀県)で発見されるなど、当時の広い交易の様子がうかがわれます。また古墳時代には川島古墳、小正西古墳など当時有力者であったとされる人物の古墳が数多く見つかっています。



前漢鏡

宿場町として賑わった江戸時代

約400年前の江戸時代になると、幕府は江戸を中心に五街道を造り、さらに脇街道を整備して宿場を設け、交通・通信網を整えました。中でも脇街道の一つ長崎街道は、鎖国という時代の中で海外の情報や文化を江戸へ伝えた重要な道でもありました。出島に降り立った外国人は長崎街道を通り江戸まで行き、長崎奉行や参勤交代の大名、吉田松陰、伊能忠敬、オランダ商館長、ケンペル、シーボルト、さらに象までも通ったとされる記録が残っています。飯塚市内には宿場町として飯塚宿と内野宿がありました。当時の飯塚宿は交通の要衝で遠賀川流域随一の大きい町として賑わいをみせていました。その街道沿いに現在の飯塚市の中心商店街があり、内野宿は当時の街並みが残り宿場の面影をとどめています。



寛政の飯塚絵図

日本を支えた炭鉱時代

明治時代に入ると飯塚の周辺一帯は筑豊炭田とよばれ、日本の石炭の50%以上の産出量を誇る日本最大規模の炭田に成長し、近代産業のエネルギー源として大きな役割を果たしました。飯塚はその中心都市として発展しました。短期間で多くの人や文化、先進的な技術が押し寄せ、石炭景気が巻き起こり、豊かな穀倉地帯は一変して炭都とよばれる全国で最も活気のある地域となりました。遠賀川を往来していた「川ひらた(通称 五平太船)」は石炭を運搬するのに使われましたが、鉄道網の整備によって姿を消し、掘り出した石炭を洗ったので遠賀川の水は黒く濁り「ぜんざい川」と呼ばれました。シュガーロード(長崎街道)の文化的伝統が残り生まれた名菓や、農村地帯に古くから連綿と受け継がれた祭や獅子舞など多彩な民俗芸能、川筋気質といわれる情熱的で開放的な人情味のある筑豊独特の風土など、石炭産業は経済・生活・文化等のあらゆる面に影響を及ぼすとともに地域の基盤となり有形無形の文化遺産が様々な形で継承され続けています。



昭和初期ボタ山
(写真提供:夢路波会)

なが さき かい どう

長崎街道 SUGAR ROAD

全長25宿 57里(約228km)



⑨ 飯塚宿

現在は商店街となって街道が残る
長崎街道と遠賀川の水陸交通の要所、筑前六宿の宿駅の一つとして栄えた飯塚宿。
2度の大火に見舞われており、現在は商店街として道は残っていますが宿場町の面影を余り留めておりませ



宿場関連の史跡に石碑が建てられています。

MAP 4-D

⑩ 明正寺(勢屯り跡)

明正寺の横が大名の本陣宿だった為、明正寺の前は勢屯りでした。本陣に大名が宿泊した際、ここで出発に先立ち隊列を整えていました。



飯塚市本町20-9

MAP 4-D

⑪ 舩石

記録によると、飯塚は遠賀川流域では最も多く川舟があった所でした。舩石は川舟をつなぐために使われた石柱です。もともとは飯塚宿問屋場と馬立所があった場所近くの川岸にありました。



飯塚市

MAP 4-D

⑫ からくり時計

飯塚宿の中心に位置している「中茶屋」(長崎屋)跡は現在「ほんまち中茶屋コミュニティホール」が建っており、正面には江戸時代の飯塚宿の様子を再現した「からくり時計」が10:00~18:00の1時間毎に道行く人の目を楽しませています。



飯塚市本町8-28

MAP 4-D

⑬ 飯の山

約800年前の鎌倉時代、遠賀は香月の出身であった聖光上人が明正寺の再興をはかり、当時この地にあった太養院に人手の賄いを依頼しましたが、炊いた飯がたくさん余り、この地に山積みにしたといわれています。以来、この地を飯塚と呼ぶようになったという伝説があります。



飯塚市

MAP 4-D

⑭ 太養院

飯塚最古のお寺で器運山香積寺と号していましたが、慶長5年(1600)黒田長政の命により今の号に改めました。寛永17年(1640)黒田忠之が御茶屋を設けるために現在地に移転しました。



飯塚市本町19-15

MAP 4-D

⑮ 内野宿

今も残る江戸情緒
慶長17年(1612)福岡藩主黒田長政の命で、毛利但馬と内野太郎左衛門によって、建設されました。長崎街道筑前六宿の一つとして栄え、大名の参勤交代等にぎわいました。シーボルトの江戸参府記などにその様子が記されています。現在も江戸時代そのままの道が残り、宿場の面影をとどめています。



飯塚市内野3313

MAP 9-C

⑯ 長崎屋

内野宿の脇本陣の一つであった「長崎屋」はここに訪れた人への休憩施設として平成16年(2004)に開館しました。「長崎屋」にはシーボルトが休息したという伝承も残っています。



0948-22-5500

MAP 9-C

⑰ 大いちょう

宿場のシンボル
内野宿本陣跡の付近に樹齢約400年と伝えられる、雄の大銀杏があります。以前は本陣内にあった雌の銀杏とあわせて「夫婦銀杏」とよばれていました。江戸時代に描かれた本陣の絵図にも、その位置が記載されており当時から宿場のシンボルだったようです。



飯塚市内野3211

MAP 9-B

⑱ 宗賢寺

内野宿を建設した内野太郎左衛門は、藩主黒田長政公が逝去するや、剃髪し小庵をむすんで菩提を弔いました。黒田忠之公はその情に感じて卜宗賢の号を贈りました。太郎左衛門62歳で死亡したので、その霊をまつり、ここに一寺を開いて宗賢寺と称しました。



0948-72-0287

MAP 9-B

⑲ 内野宿展示館

宿場の雰囲気壊すことなく、内野地区の景観の形成に寄与した建物で、平成10年(1998)に建設されました。福岡県建築住宅文化賞の一般建築部門で大賞を受賞した建物です。



0948-22-5500

MAP 9-C

⑳ 冷水峠

長崎街道一の難所
内野宿と山家宿の中間にあり、九州の箱根と呼ばれる程の難所でした。参勤交代やオランダ商館長などの交通が頻繁に行われ、シーボルトや吉田松陰、伊能忠敬など幾多の人々が通ったとされています。今でも当時の石畳があり、歴史を感じる事ができます。



飯塚市内野

MAP 9-B

